

# 01

## 略字の変遷や 俗字の謎に魅せられて、 教員志望から研究の道へ。

人文系（日本語学）

山下真里

大学院人文社会科学部准教授

人文学部

▼  
大学院（修士課程）

▼  
大学院（博士課程）

▼  
大学教員

Mari YAMASHITA



### 高校教師を目指すも、 卒論で研究の面白さに目覚める

大学入学時は、国語の高校教員を目指していました。大学3年生で教員採用試験の勉強を進めるなか、就職活動をする友人たちに感化されて会社員の道も考えはじめました。教員採用試験には合格、企業の内定もいただいたのですが、卒論執筆中に研究の面白さに魅了されてしまい、大学院に進学することを選びました。現在は日本で使用されている俗字や略字について研究を進めています。

### 漢字の変遷は、社会や文化と 密接な関係にある

研究の道に進むきっかけとなった卒論は「広」という略字がいつ頃、なぜ生まれたのかを明らかにするというテーマでした。解明が順調に行かず「卒論が書けないか

も」と焦るなか、「そういえば鉾山の鉾という字にも“広”があるな」と半ばやけっぱちになって鉾山資料館に行ってみたんです（笑）。ところが、そこで廣が略字となっていた手がかりを見つけることができました。「鉾」も最初は廣と黄の字が使われていたのですが、鉾山の町では書類などでこの字を日々大量に書く必要があり、どこかの時点で効率を上げるために廣にムの「広」という略字を使うようになったようです。では、一部で発生した略字がなぜ全国的に広がっていったのか。それも鉾山で働く人たちの仕組みにヒントがありました。当時『友子（ともこ）』という坑夫の組合があり、そこに所属すると必要な技術を学んだり、失業した際に就職の斡旋をしてもらったりすることができました。そのため、友子に加入する鉾夫の中には就職の斡旋を目的に鉾山を移動する人たちもいたようです。

また、友子が存在する鉾山同士での手紙のやり取りもあったようです。このような人の移動や手紙のやり取りなどによって、コミュニティのローカルルールだった略字は、全国に拡散されていったのではないかと推測されます。

現在は「甲」と「吊」という漢字に焦点を当てています。これらの漢字は現代では、「甲」は「とむらう」、「吊」は「つる」という異なる意味を持っていますが、実は、明治時代には「吊」も「とむらう」という意味で多く使用されていました。どのような過程を経て「甲」と「吊」は別の意味を持つ漢字になったのか、その変遷と要因について時代背景とともに明らかにすることが研究の目的です。

### 異なる領域への挑戦が 可能性を広げる

自分自身の気質として、興味が

あることには過集中してしまうところがあるので、心身の健康のためにもなるべく研究以外の時間も作るようにしています。最近は温泉めぐりで気分をリフレッシュしています。また、仙台に住んでいた時に『楽天イーグルス』のファンになり、以来、野球観戦も趣味になりました。熊本に赴任してからは、駐車場巡りをするようになりました。熊本では軽自動車専用の駐車場に「聖」という「軽」の略字が見られますが、これは熊本以外ではあまり多くは見られません。今は趣味として調べていますが、今後は本格的に研究できたらと思っています。

研究や教育においては、自由に試行錯誤できることが魅力です。失敗や挫折もありますが、「次はこのようにしてみたら、うまくいくだろうか」と改善を試みる過程にやり甲斐を感じています。自由な発想と実践が、より良い研究や教育につながると信じています。

Column

Mari YAMASHITA

### 10年後の目標は？

毎日元気に笑顔で過ごすこと。

好きな言葉は？  
人間万事塞翁が馬

とくに学生時代は挑戦の場です。私自身、学部3年生まではジャグリングのサークルにのめり込んでいました。のめり込みすぎて一時期は「大道芸人の道」を本気で考えていたほどです（笑）。卒論で研究の面白さに目覚めましたが、ジャグリングのいろんな技を習得し、極められるように集中して取り組むという点は、その後の研究姿勢にもつながっている気がします。異なる領域に挑戦することで、自分の可能性が広がります。せっかくの学生生活です。さまざまな経験を積んで未来への可能性を広げてほしいと思います。



Profile やました・まり 宮崎県出身。2015年に東北大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）取得。2012年日本学術振興会特別研究員DC1。九州女子大学教員を経て、2021年10月より現職。

最近はジャグリングをすることはありませんが、道具は大切に保管しています。